

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【公表番号】特表2008-503275(P2008-503275A)
【公表日】平成20年2月7日(2008.2.7)
【年通号数】公開・登録公報2008-005
【出願番号】特願2007-516854(P2007-516854)
【国際特許分類】

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/56

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月9日(2008.6.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脊椎を処置するためのキットにおいて、
処置すべき脊椎の部分への通路を維持するためのカニューレと；
上記カニューレを通して作動できる、脊椎への手術的な接近を提供するための手術器具と；

骨フィラーインジェクタと；

上記骨フィラーインジェクタと上記カニューレとの間の導管を提供するチューブと；を有し、

上記チューブが、処置すべき脊椎の部分に隣接する位置へ、上記カニューレを通して伸張できる、キット。

【請求項 2】

上記手術器具が脊椎内の材料のある体積部分を緩めるための器具である、請求項 1 に記載のキット。

【請求項 3】

脊椎内に射出するための流体を更に含む、請求項 1 に記載のキット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】脊椎構造の処置のための手術器具

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

本発明の 1 つの実施の形態は脊椎の処置のためのキットである。キットは処置すべき脊椎の部分への通路を維持するための少なくとも 1 つのカニューレと、脊椎への手術的接近

を提供するための手術器具とを有することができ、器具はカニューレを通して作動することができる。ある実施の形態のキットはまた骨フィラーインジェクタ、及び、骨フィラーインジェクタとカニューレとの間に導管を提供するチューブを有する。ある実施の形態においては、チューブは処置すべき脊椎の部分に隣接する位置へカニューレを通して伸張することができる。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０１１２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０１１２】

先に図示し説明した器具１０２０と同様、器具１２２０は材料Ｍを脊椎構造内へ送給するための軸方向の通路１２２５（図２０－２１）を提供するように外側のスリーブ１２３２からの内側のアクチュエータロッド１０３０の除去を許容するように形状づけられる。特に、初期形状へ戻るような器具１２２０の（ストリップ部分１２３８を含む）末端部分１２２２aの変形に続き、アクチュエータロッド１２３０が横断方向のスロット開口１２６２と細長い部材１２２２（図２６、２７）の基端との間を連通する軸方向の通路１２２５を画定するように外側のスリーブ１２３２から除去される。次いで、インジェクタのような材料送給装置１２００は、材料Ｍを軸方向の通路１２２５を通して送給し、横断方向のスロット開口１２６２及び（又は）末端開口１２６３から流出させるために、使用することができる。図示の実施の形態においては、材料Ｍは材料送給装置１２００に接続された送給チューブ１２０１を通して送給される。